

武部勤のアジアの未来図



武部 勤氏 略歴

前衆議院議員(8期)。農林水産大臣(第33代)、自由民主党幹事長(第39代)、衆議院議院運営委員長(第63代)を歴任。

議員時代にベトナム友好議連会長、インドネシア友好議連会長、メコン友好議連会長、モンゴル友好促進議連会長、バーレーン友好議連会長を務めたほか、今年3月1日には社団法人日本ベトナム経済フォーラムの名誉会長に就任するなどアジアを中心とする諸国との友好に尽力。このほど一般財団法人「東亜総研」を設立し代表理事に就任。

「東亜総研」 設立記念フォーラム開催！

11月6日、私が代表理事・会長を務める一般財団法人東亜総研の設立記念フォーラムを開催することができた。キャピトルホテル東急(東京都千代田区)の会場には200人を越える方がお集まりいただき、設立を祝ってくださった。東亜総研の設立に多大な支援をいただいた二階俊博先生とレコフの吉田允昭代表、特別講演の講師を引き受けてくださった岸田文雄外務大臣、懇親会にて祝辞をいただいた福田康夫元総理とバーレーン王国のハリール・ビン・イブラヒーム・ハッサン特命全権大使、そして忙しいなかご出席いただいた11カ国の駐在高官をはじめとする多数の方々に改めて御礼を申し上げたい。ありがとうございました。

本項では同日の様子と共に、私のアジアへの思いを紹介させていただきます。

代表として挨拶をさせていただいた後、二階先生が祝辞を述べてくださった。

「武部さんとは多くの思い出がある。とくに苦しい日々を共に歩んだなかで築いた信頼関係こそ私にとっては何物にもかえがたい宝物だ。

あの小泉元総理による突然の郵政解散。武部さんは党の幹事長として小泉元総理から全幅の信頼を受け、私も選挙対策局長として自民党の命運をかけ

た戦いに共に望んでいた。ふたりで毎日のように夜遅くまで綿密に打ち合わせをしたものだ。

選挙終盤にはお互い疲れ果て、夜中の1時、2時となりお互い手を挙げるだけの挨拶で別れる毎日。口には出さずともそれだけで『また明日も頑張ろう』と心が通じ合っていた。当時の武部さんの活躍がなければ、今の自民党の復活もなかったと心から思っている。

政界引退については残念だったが、東亜総研の設立という国会議員を務めてはとてできないような壮大な事業、アジアの新しい時代を築こうという仕事に熱心に取り組んでおられる。

世間では『国際時代が来た』『アジアの時代が来た』という声こそ大きいものの、本当にそのことを理解している人が幾人いようか。武部さんにはこうした流れを導くリーダーの一人である。私も協力を惜しまないつもりだ」

過分なお言葉をいただき胸が熱くなった。二階先生は10月15日に衆議院予算委員長に就任されたばかり。多



二階先生には熱のこもった祝辞を述べていただいた

忙を極めるなか参加していただいたこと心から感謝している。

岸田文雄外務大臣が 特別講演

前衆議院議員で東亜総研の評議会議長を務めてくださっている村田吉隆氏による挨拶の後、岸田文雄外務大臣が特別講師として駆けつけてくれた。

「世界・アジア・日本」と題し、岸田大臣の外交にかける想いを述べてい



トップバッターとして挨拶。設立理念を説明させていただいた



自らの外交理念とアジアをテーマに講演して下さった岸田外務大臣



福田元首相の祝辞にも感激した

ただいた。以下がその主旨である。

「日越友好議員連盟では、当時会長だった武部先生、現会長の二階先生のもと事務局長、幹事長として汗をかかせていただいた。その間、ベトナムも大きく変わった。

政界引退後も『日越大学の設立』という具体的な提案をいただくなど両国の友好に尽力いただいていることに感謝を申し上げたい。

さて、現在の日本を取り巻く外交環境は厳しい状況にあると言わざるを得ない。そのなかで私は基本戦略として次の3項目を柱として掲げている。

1つめの柱は日米同盟の強化。2つめの柱は近隣諸国との関係強化の推進、3つめの柱が経済外交の推進である。いずれも外務大臣としてやりがいのある仕事、テーマであるがこれだけで満足してはならないとも痛感している。

すなわちグローバルな課題、世界そしてアジアにまたがる諸問題の解決の

ため、日本国としてどのように取り組むべきか、というテーマである。環境問題、女性人権問題、戦争不拡散などが主要課題であろう。

とくに環境問題はアジア各国で大問題となっている事案である。我が国が保有する高い技術力を活かすことで解決に向け力を発揮できるはずだ。

また近隣外交については難しい状況にあることは事実である。とくに中国、韓国と様々な議論があり問題を抱えている。こうした諸問題の解決に向けて正面から取り組むことも大事であるが、今現在の日本が何をしているのか、未来に向けて日本は何をしようとしているのかを国際社会に示していくことが解決につながるのではないかと考えている。

そのためには政府、議会だけでなく民間レベルでの交流が必要であり、そうしてこそ未来志向のアジア外交が生まれると考えている。

東亜総研にはそうした意味においても日本の外交を支えていただきたいと期待している」

「我が国は今年、ASEAN諸国と友好40周年の節目を迎えた。12月にはASEAN各国の首脳を招いての特別首脳会談の開催も予定している。

武部代表理事はベトナムのみならずインドネシアおよびメコン諸国とも太いパイプを持っておられる。

こうした国は先程述べたグローバルな問題を抱えていることが多い。東亜総研には、諸問題を解決するため、日本の存在感を示すためにも大いに活躍していただきたい」

公務の合間を縫って駆けつけてくれ

た岸田外務大臣にあらためて感謝申し上げます。

「共存共栄のアジア新時代へ」 想い新たに出発

このところ地方自治体や中小企業の経営者の方から、アジア諸国との関係強化や進出に関してご相談いただくことが増えた。

そのなかで感じるのは、あらゆる既成観念を一度リセットする必要があるのではないかということだ。今や世界は新しい時代への流動化が進んでいる。今一度、アジアとの関係も見直すべき時が来ているという想いである。

私は26年に及ぶ国会活動から一線を退いたが、ライフワークとしてアジア地域の平和と繁栄に寄与したい、という思い止み難く、より自由な立場で、よりダイナミックに日本とアジアにおける人と人との絆を深め、共存共栄に資するため、東亜総研を設立した。一人だけが勝つのではなく、共に助け合い、共に励まし合い、共に力を集めて問題解決にあたる。これは日本古来の美風である。

信義を尊び共に栄える「協和の精神」に則り、日本の持てる力をアジア発展に活かし、アジアの力をまた日本の発展につなげていくことが本財団の設立趣旨である。

経済はもちろん豊かな歴史と文化を持ち、潜在的な人材の宝庫でもある東アジアは、私たちにとって親愛なるパートナーである。多くの方々の賛同と支援をいただき共に理想実現を目指していきたい。

■東亜総研 月例セミナー開催のお知らせ

日時：12月13日(金) 1時半～15時

場所：東京都千代田区麹町4-1-1

麹町ダイヤモンドビル9階

テーマ「日本はいかに生きるべきか～私の期待する日本」

講師：バーレーン王国特命全権大使ハリール・ビン・イブラヒム・ハッサン氏
お問い合わせは一般財団法人東亜総研(電話03-6380-8712)まで